

三つの観点から感情を解する

(Looking at Emotions From Three Points of View)

丁大路
Jerry Ding

1 ブラックボックスの窓口

仮に、我々は何とかして未知な機械を手に入れたと仮定しよう。この機械はなんの役目をするか。どのように機能するか。氷山の一角のように、観測できる行動はきっと限られている。なのに、機械の外部動作を分析すると何らかの手がかりを見つけられる。

多分、人間の心理はこのようなブラックボックスとして考えてもいいである。例えば、「孤独感」というのはどのような存在なのか。脳の神経活動や起こす要因によると、憂愁や落胆と似たような感情で分類させられるかもしれない。しかし、「孤独感」の表現を全部同じように処理してもいいはずではない。感情を感じる本人はもし現在の状況を望んでいなく、積極的に抵抗していたのに孤独に陥ったら、失敗感や不安もきっと混じっている。一方、世界を蔑んで勝手に引きこもる人もいる。いわば、違う場所で同じ孤独感が現れられる。

人間の心理は我々の表現力以上複雑であり、感情というものを作って回りくどい方法で表すしか仕方ない。我々の使命はこの窓口を利用し、できるだけブラックボックスを分析することである。

2 気まぐれな指導者

自分の気持ちは自分だけで司ると思うか？お前、ホント間違ってるよ。俺達の気持ちは秩序なく進化してきただろう。一ヶ月前のことはいつの間にか気にも留めなくなるんだ。一年間前の悩みもとっくにささいな事として見過ごしてしまうん。なお、一部の人々は様々の技を極めて俺達の感情を翻弄しやがる。単なる文字とか絵筆とか音楽がそんな大きな影響を及ぼせるなんて、びっくりするべきか？

なのに、どうしてこの感情と呼ばれる気まぐれなことに意味がつけられているかな？残念ながら、人間はずっと自分の操りやすい感情に支配されてきた。そこで、感情の操作は必要な手腕になったんだ。俺達はまともに認めているかどうかに関わらず、社会に受け入れられるために他人の望んだ行動を見せざるを得ない。理性的な言葉は説得力があるまい；説得力は道徳的な共鳴とか自己利益次第だ。一番幸せな経験でさえも繊細なバランスに過ぎない；この幸せは近いうちに不満と退屈に変わるはずだ。その時、俺達はきっと新しい生き方を理想化しながら、自分さえ騙す。

気持ちで振り回されながら生きてもよろしいか？または、自分の気持ちを一切無視するほうがマシか？そんなこと、選べるか？

3 生命の息吹

人間における最も特別なところは何でしょうか？現在の技術は様々な分野ですでに人間を超えてきました。携帯電話のプロセッサはチェスのグランドマスターより上手ですよ。ソフトウェアで作った数学定理の証明は私達が検証できなくて

きません。最新の 3D ゲームのビジュアルも我々最も鮮明な夢より繊細のではないか？

なのに、いくら先端な技術も単なる道具と思われています。つまり、そんな人工機械は何らかの生命の息吹を欠けるいます。このいわゆる生命の息吹が、脳裏の陰気に興味を持つ科学者から自分の幸福を一心に否定する愚か者まで、どんなに奇妙な場所でも見つけられます。作成者で定まれた目的にかなわないプログラムは強引に終了されるまで何度も再試行し続けます。一方、人間は場合によって違う行き先を選び、自分の感情で引っ張られて流動的な目標を追いかけます。用を足せない道具は価値がない、だが一時的な目標を放棄する者は生命の息吹を失うわけではありません；近いうちに新たな夢を目指すに違いない。

いつか、人工知能もある種の生命の息吹を授かるかもしれません。その日以降も、人間の特質が変わるわけではありません。我々は自分の人間性を大切にしたいなら、このような人工知能を生き物として歓迎すべきでしょうね。